

令和5年度 「学びの変革」研究協議記録

日 時 10月30日(月) 14:40～15:30

日 程 ○国語科研究授業 1年5組(14:40～15:30)

授業者 松見 奈々子 教諭

教材名 「故事成語ー矛盾」

○研究協議(15:45～16:15)

① 開会挨拶

紹介 呉市教育委員会 学校教育課 岩城指導主事様

② 校長先生あいさつ

- ・国語部会での研究授業に続いて今日の授業。改善した授業となる。授業を大切に。授業が全て。一生懸命に取り組む生徒の姿があった。
- ・目指す生徒像に向けて、しんどい現実はあるが、生徒に力を付けるためにまずは授業を大切にしよう。

③ 授業者 松見先生から

- ・単元を貫く問い。「故事成語がなぜ今も残っているのだろう。」
- ・6時間構成の6時間目。(単元の説明あり)
- ・4コママンガを描く時点で「難しい」と言っている生徒もいた。
- ・意味が合っていないマンガを描いた生徒もいた。

④ グループ協議 (15分)

発表 (10分) 生徒の姿を中心とした研究協議～授業参観シートから～

◎ 授業参観シート(1～5の評価表から)

1 【意欲の喚起・学習の見通し】

- ・楽しそうに授業に参加
- ・4コママンガを活用し、意欲付けになっていた。自分の中で意味が深められていた。

2 【自分の考えの表現】

- ・ストーリーの評価がもっとあればよかった。(答えを言っただけでなく)

3 【他者との考えの交流】

- ・ワークシートの【自】【ク】について、考えの変容について発表させてもよかった。
- ・同じ故事成語でも視点がちがう生徒もいたため、机間指導でピックアップして紹介できるとよかった。
- ・コミュニケーション力とリンクさせて、互いの作品を紹介し合う交流の仕方に工夫があるとよかった。

4 【学習の振り返り】

- ・最後の振り返りも発表させるとよかった。
- ・振り返りの記入があまかったのでは。

5 【学びの選択・学習の調整】

- ・班だけの交流ではなく、タブレットを活用して全員の作品を交流させてもよかった。（I T Cの活用）
- ・改善案が形になっていた。「なぜ使っているのか」→「なぜ残っているのか」に変更し、問いを変えたことで生徒の答え方が広がった。

◎ 岩城指導主事から指導・助言 （16：15～16：30）

◎広島県の目指す教員の姿 4つの力について

その中の「ファシリテートする力」→呉市 授業見直しのポイント

○協働的な学び→多様な考えを引き出す

○問いの仕方→1語1語何をねらって問うか比較する

⇒単元構成をどうするかによって授業構成は変わってくる

○教師の手立てが効果的であったか→子どもの姿で見取ることが大切（ワークシートの記入4コマ漫画）

○見方 考え方を働かせたか →本時の授業「評価者を評価」（教師）

ワークシート「ストーリーの解釈）＋つじつまがあっていない。そのため・・・」
このような書き方がしてあるか。

○モデル・見本（矛盾ついで文章が明記されていた）があったことがよい（大切である）

○全国学力テストの結果から（本校）

- ・根拠を明確にして 事実→解釈・理由づけ→主張・意見
- ・各教科でこの思考の流れに子どもが慣れるようにしていく必要がある。どの教科も行う。
- ・学び方の振り返り。自分が何ができるようになったか。そのために工夫したこと。
⇒「自分はやればできる」（成長的思考態度）を育む。